

『身近に感じる国際金融』第1刷正誤表

2019年4月8日

*お詫びして訂正いたします。

第2章 国際収支と対外資産負債残高

●44 ページ 第2節 1段落目 3行目～

誤：「単純化していえば，経常収支黒字とは対外的な受け取り（販売）のほうが支払い（購買）よりも多いことなので国民所得の増加要因となるのに対し，**対外的な支払い（購買）よりも受け取り（販売）**のほうが多い経常収支赤字は，……」

正：「単純化していえば，経常収支黒字とは対外的な受け取り（販売）のほうが支払い（購買）よりも多いことなので国民所得の増加要因となるのに対し，**受け取り（販売）よりも対外的な支払い（購買）**のほうが多い経常収支赤字は，……」

第3章 国際金融市場

●79 ページ 2段落目 2行目～

誤：「通貨オプションの場合，N社はオプションを放棄して**450億円**をスポット・レート（第1章）でドルに換えれば500万ドル（=**450億円**×1ドル/90円）を手に入れて，支払いをすることができます。通貨オプションを実行した場合（**500億円**を支出）よりも円の支出が**50億円**少なくて済みます。」

正：「通貨オプションの場合，N社はオプションを放棄して**4.5億円**をスポット・レート（第1章）でドルに換えれば500万ドル（=**4.5億円**×1ドル/90円）を手に入れて，支払いをすることができます。通貨オプションを実行した場合（**5億円**を支出）よりも円の支出が**0.5億円**少なくて済みます。」

●80 ページ 図3.3 （出所）1行目

誤：「銀行国際資産，国際債券**は**，デリバティブの……」

正：「銀行国際資産，国際債券，デリバティブの……」

●90 ページ 5行目

誤：「……何となく意味が通じてしま**す**のですが，……」

正：「……何となく意味が通じてしま**う**のですが，……」

『身近に感じる国際金融』第2刷正誤表

2021年3月3日

*お詫びして訂正いたします。

第2章 国際収支と対外資産負債残高

●37 ページ 脚注「居住者と非居住者」

誤：「居住者とは、その国の国籍をもつかどうかだけではなく、取引主体の居住性、つまり基本的に1年以上当該国に所在しているか、所在する意思があるかどうか判断の基準となります。たとえば、日本企業でも海外支店の活動は非居住者扱いですし、外国籍をもつ者でも1年以上日本で働けば日本の居住者です。ただし、留学生は滞在期間にかかわらず非居住者扱いです。」

正：「居住者とは、その国の国籍をもつかどうかだけではなく、取引主体の居住性、つまり基本的に1年以上当該国に所在しているか、所在する意思があるかどうか判断の基準となります。たとえば、日本企業でも海外支店の活動は非居住者扱いです。外国籍をもつ者でも日本にある事務所に勤務したり、6カ月以上日本に滞在していれば日本の居住者となります。留学生も6カ月以上滞在すれば居住者となります。」